



5
月

パストラル尼崎

阜
月

No.155.2025(R7)年4月25日

〔編集・発行〕

パストラル尼崎

尼崎市潮江1丁目10-2

Tel.06-6493-0521

Fax.06-6493-0301

発行責任者：竹田 恵之

◆5月の歳時記◆

『変化するゴールデンウィーク』



佐田啓二

今年のゴールデンウィークは4連休となります。中には4月末の「昭和の日」から連続で長期の休暇としている羨ましい企業もあります。さて、このゴールデンウィークですが、昭和23年に祝日法が施行され、当時の昭和天皇の誕生日に加え、新たな祝日として「憲法記念日」「こどもの日」が制定されました。

きつとその頃の国民にとっては、ビッグニュースだったに違いありません。今や、海外旅行や帰省、ショッピングなど過ごし方は多様化していますが、戦後まもない当時の人々のゴールデンウィークの過ごし方はどうだったのでしょうか。

その頃の記録を見ると、この休日で大きく売り上げを伸ばしたのが映画業界でした。特に映画会社の大映が松竹と競作して昭和26年に同時上映となった『自由学校』は、大映創設以来最高の売上を記録しました。(余談ですが、主役の佐田啓二のセリフ「とんでもなはっぶん」「ねえ、おばさま」「ネバーネバー」は大流行したとあります。)テレビが普及する前の映画鑑賞が、庶民の娯楽として絶大な存在だったのが伺えます。この『自由学校』が、お盆映画や正月映画以上の興業成績を残したこと、これを勝機とみた大映の社長たちが宣伝用語として名付けたのが「ゴールデンウィーク」でした。ただ、NHKや一部民放などは、ゴールデンウィークは使わず「大型連休」に統一しているのだとか。

ゴールデンウィークとの名称が用いられ始めた時代は、日本映画の黄金期で映画鑑賞のほか、百貨店での買い物、遊園地、ハイキングといった日帰り旅行などがこの時期の一般的な過ごし方で、1970年以前は普段の日曜日・祝日の過ごし方と大きな違いはなかったようです。しかし、その後の振替休日制度の導入や土曜休みの普及に伴って、次第にこの時期全体を利用した泊まりがけの旅行や帰省が増え、1990年以降は海外旅行も一般的となりました。

とはいえ、現在もアンケートで一番多いのは「家でゆっくり派」。確かに今でさえオバーツーリズムで何処も人だらけなのを考えると、何もわざわざ疲れに行く事もないか・・・となりますよね。汗

しかし、ここでメスを入れようとしたのが平成22年当時の民主党政権。地域ごとにゴールデンウィークをずらす案でした。しかし、地域によって平日と休日が異なることで商取引や金融システムなどの経済活動や、遠方への単身赴任者が帰省しても、現地では平日のために家族と一緒に過ごせないなどの問題が拳がり実現しませんでした。

羨ましい日本一の「村」

日本で一番お金持の自治体ってご存知ですか？東京都港区でも兵庫県芦屋市でもありません。そこは名古屋市にくっついている飛島村（とびしまむら）という人口4500人ほどの小さな“村”です。

田園風景と名古屋港を中心とした臨海工業地帯が共存する飛島村は、埋立地に建つ大手事業所からの固定資産税で潤っているのだとか。(しかし過去には戦時中、名古屋の工場を爆撃から守るため、田畑に裸電球をつけ大都市を装うなどした為、多くの犠牲を出したという悲話も・・・) そのサービスは至れりつくせりの羨ましい限り。高齢者サービスでは温泉や温水プールのある豪華施設の充実。36枚のタクシー料金助成利用券の交付。希望者への無料の乳酸菌飲料の配布と共に行われる安否確認。そして長寿祝い金にいたっては、90歳で20万円、95歳で50万円、100歳で100万円を頂けるのだとか・・・。引っ越したい！と思っているそこのあなた！ 実はそう世の中、甘くはないのです。実は飛島村は全て「市街化調整区域」となっていて、新たな住宅や商業施設が建てられず、引っ越そうと思っても住む家がないのです。・・・それでも何とか！という方は、住民と結婚するほか手だては無いようですよ。泣

『シニア大学』講師探し奮闘中！

来月から、いよいよ2025年度の『パストラルシニア大学』が開講します。数か月前から講師探しは始まっていますが、毎年、面白そうなテーマ且つ無償で講演頂ける心優しい講師を求め、ネット情報や情報誌と昼夜睨めっこ。依頼したい講師を決めた後は、“度胸と愛嬌？”でひたすらお願いする日々。中には某、有名洋菓子メーカーへの講師依頼に、わざわざ社長秘書から「万博の多忙な時期ですので・・・」とご丁寧なお断りの返信を頂き、かえって恐縮するなど、その交渉は悲喜こもごもですが、今回は、京大の基調講演にも登壇し「チコちゃんに叱られる」にも出演された私大の学長や、甲子園高校野球の審判を27年も続けて来られた講師の「奇跡の試合」の振り返り。また最愛の妹を殺害されたのにも関わらず、今、受刑者の更生のために奔走している社長のお話など、メディアに出演経験のある講師たちをはじめ、王子動物園の飼育員のお話、税金や医療のお話など多彩なプログラム企画が進行中です。2025年度のシニア大学、どうぞ皆様、ふるってご参加下さい。また多忙の中、快諾下さった講師への敬意も込め、毎回時間が設けられる質問タイムにも積極的にご参加頂きますようお願い申し上げます。(F)

